

血液内科遠隔医療分科会・SIG Remote Hematology

分科会長 西川 彰則

分科会長 和歌山県立医科大学

1. 分科会設立の目的

血液疾患患者診療における遠隔医療（同種移植後患者の遠隔 LTFU、在宅輸血の見守りなど）の普及と診療報酬を検討する。

2. 分科会メンバー数 3人

3. 令和4（2022）年度の活動の実績と成果

(1) 第66回日本輸血・細胞治療学会近畿支部総会シンポジウム「遠隔医療と輸血・細胞治療」

コロナ禍のオンライン診療、在宅輸血の遠隔見守りや造血幹細胞移植患者の遠隔 LTFU 外来などをテーマに、和歌山県田辺保健所の刑部裕昭先生、赤坂クリニック屋敷孝子看護師、和歌山県立医科大学蒸野寿紀先生、日本遠隔医療協会会長谷川高志先生に発表頂き、血液疾患診療における遠隔医療と今後の保険収載などに向けての課題などを、分科会会長の西川彰則と赤坂クリニック赤坂浩司院長が座長を務めディスカッションを行った。

(2) 第45回日本造血・免疫細胞療法学会総会 一般口演

「遠隔 LTFU 外来ニーズ調査全国アンケート結果報告」

分科会メンバー蒸野寿紀先生が、全国 286 の同種移植実施診療科に対してオンラインを用いた LTFU の実施状況およびニーズ、導入の課題調査の結果を報告した。

(3) 第26回日本遠隔医療学会学術大会 一般演題

「D to P with D 診療における診療報酬制度の課題と問題点」

分科会メンバー蒸野寿紀先生が、遠隔 LTFU の実情を通じて遠隔連携診療料の適応範囲拡大についての発表を行った。

(4) 令和4年度血液製剤使用適正化方策調査研究事業（厚労省）

分科会長を中心に、兵庫県合同輸血療法委員会にて「研究課題名：呼吸数測定可能なパルスオキシメーターを加えた遠隔バイタル連携システムを用いた在宅輸血患者の安全な見守りの有効性の検証」の研究事業を実施した。赤坂クリニックの在宅輸血患者5名に対して、在宅輸血中のバイタルデータの遠隔見守りを実施、バイタルデータ異常時の連携および医療的介入が可能であった。詳細については今後、学会発表、論文化の予定。

4. 令和5（2023）年度の活動の目標と計画

(1) 普及啓発：遠隔 LTFU 導入の手引きを作成し、全国の同種移植実施施設への普及啓発に努める。

(2) エビデンスの創出と保険収載への働きかけ：遠隔 LTFU（D to P with D）の有効性の実証および在宅輸血の遠隔見守りの有効性の実証を行い、それぞれの保険収載に向けての働きかけを行う。

分科会長連絡先（Email）：nishikaw@wakayama-med.ac.jp